

「『自立支援の視点』～その人らしさの原点～」

4月の公開研修会は、『自立支援の視点』～その人らしさの原点～というテーマで介護老人保健施設鴻池荘 野々村剛理学療法士よりお話をさせて頂きました。

当日は、地域の事業所、民生委員、行政の方に加え、病院関係者の方に多数ご参加頂き110名を超える研修会となりました。

まず、野々村より、平成30年の医療・介護同時改定のキーワードとなる今回のテーマについて、

①介護保険制度の維持②高齢者の生活の質を高める観点からも、自立支援や重度化防止に向けた取り組みが重要であると伝えさせて頂きました。次に、ケママネジメントにおける「お世話型のケアマネジメント」と「自立支援型のケアマネジメント」の事例を紹介させて頂きました。

何らかの事故や病気で病院に入院され、退院時に「できないこと」へのお世話型のサービス調整を行うか？専門職の評価のもと「できること」に働きかける自立支援型のサービス調整をおこなうか？この専門職の評価を元にしたSPDCAのサイクルをICFの生活機能モデルにあてはめ、「自立支援の視点」を分かりやすく説明させて頂きました。

その中で、医療との連携では、できる限り早い段階から適切なリハビリテーションを提供することが重要で、Surveyとしてのセラピストが情報収集・評価・分析してICF（国際生活機能分類）の視点をチームで共有し支援することで、生活機能や生活の質を最大限高めることが出来ると伝えられました。

最後に、ケアマネジャーも質の高いマネジメントが求められており、その目標は「自立支援」であり、ICFの生活機能モデルにおける「参加」をチームで共有し支援することであると伝えさせて頂きました。

今回の研修会では、30年の同時改定に向けて介護保険と総合事業とインフォーマル（サロン・居場所）それぞれの改正のポイントや方向性について説明させて頂きました。

そして、ケアマネジャーはじめ利用者に携わる全ての専門職種がチームケアを基本に、1年後の医療・介護同時改定に向けて自立支援型のマネジメントの考え方を一緒に共有することができた研修会となりました。

